軍拡地獄が国民を貧しくする

理だ。しかしどう考えても1つの国はみんな善でもう1つの国はみんな悪なんてことにはならない。どの国にも素晴らしい人もいる人いるし、そうじゃない人もいっぱいいる。

２つ目の問題は命令に従わざるを得ないということ。もし私が戦闘員となっていたら、間違いなく私はガザに爆弾を落としていた。私の友達は99%が戦闘機のパイロットになった。大半はレバノン人もパレスチナ人も殺している。赤ちゃんも女性も男性も年寄りも殺す。今考えるとパイロットにならなくて本当に良かった。日本に来てから気づいた。

３つ目は言うまでもない。人を殺しても罪にならない。軍隊とは人殺しが罪にならない組織だ。狂っている。

４つ目は軍隊の唯一の解決法が暴力ということだ。国と国との間でギクシャクすると外務大臣同士、首相同士、国連を使ってなんとか解決しようとする。軍隊はどうか。話し合いは軍隊の仕事ではない。武力で解決するための組織が軍隊だ。じゃあ自衛隊に今入ってる人はみんなひどい人間か?そうじゃない。それぞれ自分の考え方、自分の価値観はちゃんとある。しかしそれを排他する組織。それが軍隊なのだ。

憎しみを増長するSNS

ガザ・イスラエルの間で新しいことがまた起こっている。イスラエル兵がパレスチナ人の女性の持ち物や衣服を自分が持ったり身に付けたりしている自慢げな写真がSNSで投稿されているのだ。これらの持ち主はもうこの世にはいない可能性が高い。あるいは自分の家に帰れない状況かもしれない。それをふざけてこういう写真を出してどんどんSNSに出す。

武器の力に酔ったイスラエル兵によって、パレスチナ人は強い憎しみを持ち、今ガザは報道されているような事態になっている。

終わりのない軍拡と貧しい国民生活

イスラエルはパレスチナ人がイスラエルで自爆テロをできないようにと、ガザ地区の周りにフェンスを作った。これによってパレスチナ人に自由が手に入らなくなった。それでパレスチナ人は何をしたかというと、フェンスの向こうからイスラエルに向かってロケット弾を打ち始めた。ガザで作っているロケット弾はものすごい単純なもので、手作りで1発5000円ぐらい。一方、イスラエルの迎撃は1発500万円。絶対に迎撃するため、2か所から同時に打つ。結局、自分の国を武力で守ろうとして、どんどん公費が膨らみイスラエル国民は貧乏になっている。去年10月、ガザではなくイランからイスラエルに向けて弾道ミサイルが飛んだ。これをイスラエルが迎撃するために打ったミサイルは価格が一発4億5千万円だ。これをイスラエルは30発準備した。しかも次世代のミサイル開発も進めている。このように軍拡はつまでも終わりがない。兵器地獄だ。

今回の戦争で一年半経過したが、イスラエルは初めて一年で12兆円使った。日本の国家予算が115兆円と考えれば、日本の国家予算の1割ぐらい。一年間で、医療でもない、教育でもない、何の意味もない戦争に使った。今でも使い続けている。

イスラエル・ハマス停戦の行方不透明に
写真：AP／アフロ

戦争で生き残った子どもが加害者に

2008年イスラエルパレスチナの345人子どもを殺害した。もちろん生き残った子どもいる。この子どもたち2023年に大人になって、当然憎しみでいっいだ。一昨年の10月7にイスラエルを襲っ。あれからイスラエルずっとパレスチナを攻している。1万8千人子どもが亡くなったが き残る子どももいる。の子どもがどうなるかいうと、この計算でいと、おそらく2038年頃、大人になってまたイスラエルを襲うだろう。戦争が結局、心より生まれて、戦争で犠牲者を出す。戦争の犠牲者というのは正しいが、それだけじゃない。犠牲者が加害者になっていく。90年前の日本、80年前までの日本人はアジアで大量に他国の国民を殺害している。でも自分たちは正しいと思っていた。自分たちを守るためだと言って。

今のイスラエル人、全く同じ発想で同じことをやっている。外から見ると狂っていると思うけど、中にいる人はわからない。そのことを、私たちはイスラエル人に伝える必要があると思う。日本人であれイスラエル人であれ、初めて考える必要性が出てくる。自分が何をやったのか。

イスラエルとパレスチナの歴史、被害者だった子どもが数年後に加害者になっていく経過、ぜひ考えてほしい。日本が手にした平和をどうやったら未来に託し今後も続けていけるのか。その責任を放棄するわけにはいかない。答えを出していく必要がある。

ダニー・ネフセタイさん

1957年イスラエル生まれ。高校卒業後、徴兵制によってイスラエル軍に入隊。３年間、空軍に所属。退役後アジアの旅に出て来日。日本各地をヒッチハイク。1988年末、埼玉県秩父郡皆野町に居を構え、「木工房ナガリ家」を開設。注文家具、遊具、木工小物、社会性オブジェの創作活動に従事。

全国各地で招かれ、講演にも出向く。テレビの報道番組への出演も多数。講演のタイトルは「原発危機と平和」「外国人の目に映る人権」「イスラエルの歴史と今・そして日本」など。

おおさか医科・歯科九条の会　市民公開講演会

底が抜けた国～日本社会は自浄できるのか!?～

低賃金・物価高騰に国民が喘ぐ一方、大企業は内部留保を過去最大まで膨らませる中、政府はなんの手立ても講じられていません。参院選では排外主義を叫ぶ政党が議席を得、勢力を伸長するなど、日本は異常事態に陥っています。日本社会は自浄能力を発揮することができるのか。講師に、問題意識を語っていただきます。

日　時　11月16日（日）午後２時～４時
会　場　M＆Dホール（定員100人）＋WEB
講　師　戦史・紛争史研究家　山崎 雅弘 氏

申込用
QRコード

講師略歴
戦史・紛争史研究家。1967年大阪府生まれ。『日本会議　戦前回帰への情念』で、日本会議の実態を明らかにし、注目を浴びる。主な著書に『詭弁社会日本を蝕む“怪物”の正体』（祥伝社新書）、『底が抜けた国　自浄能力を失った日本は再生できるのか？』、「第二次世界大戦秘史」（ともに朝日新書）、『未完の敗戦』（集英社新書）などがある。

問い合わせ　大阪府歯科保険医協会　TEL 06-6568-7731・FAX 06-6568-0564